



AI(人工知能)ホスピタルによる高度診断・治療システム

令和4年12月17日(土)
内閣府 プログラムディレクター
中村 祐輔

週刊 医学のあゆみ

Vol.282 No.10

2022 9/3

第1土曜
特集

AIホスピタル の社会実装

企画 中村祐輔

国立研究開発法人
医薬基盤・健康・栄養研究所理事長



医歯薬出版株式会社
<https://www.ishiyaku.co.jp/>

SIP「AIホスピタル」プロジェクトで最も留意した点

連携・情報交換

高い技術力はあるけれども
現場のニーズに
マッチできていない企業

・独りよがりの技術開発で
なく、医療現場の声を反映
させた技術開発

AIやデジタル化技術の必要
性を十分につかみきれず、
対応できない医療機関

- ・個々の技術ではなく、病院全体として、AI化・デジタル化を目指すリーダーシップ。
- ・医療従事者の声をボトムアップで聞き、DXに取り組む体制構築

AIやデジタルの重要性を理解しつつ、
実装化する方策を模索していた
17万人強の会員を持つ日本医師会

クリニックや地域の医療機関に
質の高いAI/デジタル技術を使いやすいコスト
で提供できる体制の構築
(日本医師会AIホスピタル推進センター)

SIP「AIホスピタル」プロジェクトで最も留意した点

連携・情報交換

AIプラットフォーム技術
研究組合 (HAIP)
2021. 4. 1 発足
経済産業大臣・
厚生労働大臣認可

BIPROGY・日立製作所
日本IBM・ソフトバンク・
三井物産・大樹生命保険
TIS・日本マイクロソフト・
成育医療研究センター・
ISJ・北海道大学・
国立国際医療センター

病院間ネットワーク

1. 成育医療研究センターと
16の小児医療機関
2. 慶応大学と関連病院＋岐阜
大学附属病院
3. 大阪大学と27の関連病院
4. がん研有明病院・横須賀共
済病院と信州上田医療セン
ター・湘南鎌倉病院(徳洲会グ
ループ)・板橋中央病院(IMSグ
ループ)

5万床近い病床数

日本医師会AIホスピタル推進センター
(17万人以上の日本医師会会員)

高度で先端的な医療の提供と
医療従事者の負担軽減を両立させる



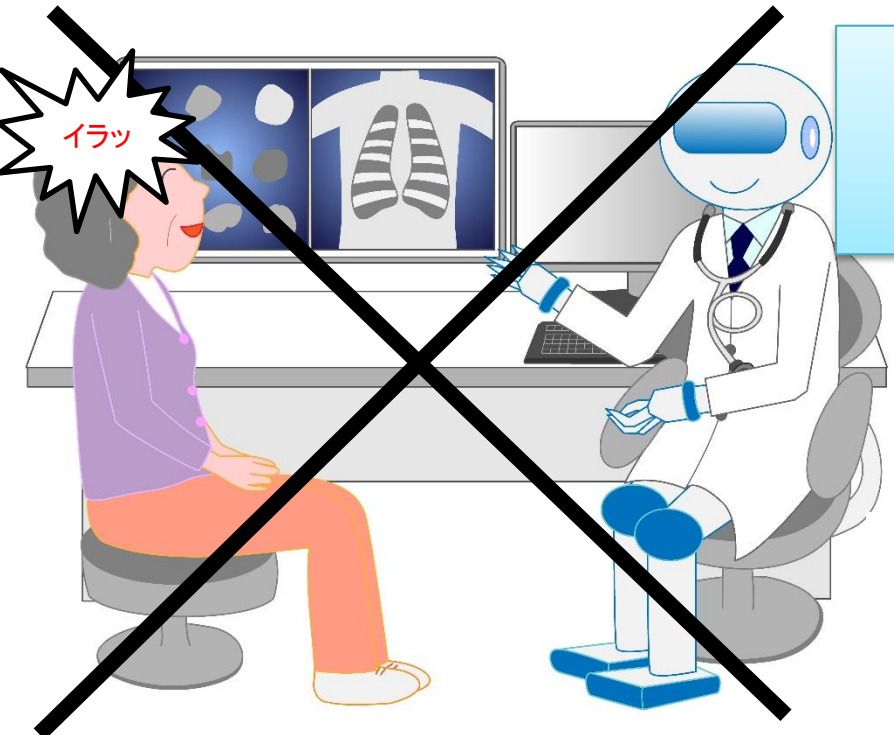
時間と心のゆとりを取り戻し、人的エラーを回避して
心温まる医療を

いつでもどこでも誰でもが
質の高い医療を！



AIプラットフォーム技術研究組合と日本医師会との連携
日本全体へのAI・デジタル普及の仕組みが構築

ゴール: 冷たく機械的な医療現場ではなく、心と心が通い合う医療現場



AIで時間と心のゆとりを取り戻し、Empathy(思いやり)に満ちた医療を!

十分な診療時間の確保を行いつつ、
医療現場の負担軽減と
患者の満足度を高めることの
両立を図る

医療現場における人的ミスの回避
(投薬ミス・患者や検体取り違え・検査画像の確認ミス)

診察や検査待ち時間の最小化

